

## ⑥市民討議会

無作為で選ばれた市民の中から、参加者を募り、参加者のみで構成する小グループでの討議を通しながら意見を集約し、事案に対する意見をまとめていく方法。

手法のメリット	手法のデメリット
<p>①無作為で選ばれた市民の中から、参加希望を募ることにより、これまで市民参画の機会がなかった方たち（サイレントマジョリティ）の参加が期待できる。</p> <p>②事案に対して利害関係のない市民の参加が期待できるので、偏りのない中立・公平な意見の集約が期待できる。</p>	<p>①運営方法や参加者への情報提供を注意しないと、偏った方向に進み、中立・公平な運営や意見が集約できない。</p> <p>②募集に要する郵送代や報酬等のコストがかかる。</p> <p>③開催までの準備や報告書の作成に時間がかかる。</p>
<p>■市民討議会を行うことが適している場合</p> <p>①なるべく早い段階から市民参画手続を行うことが適当と認められる場合</p> <p>②地域課題の解決が必要な場合</p> <p>③偏りのない中立・公平な意見や提案を求める場合</p>	